

2 学期終業式のことば

2020. 8. 7

皆さんこんにちは！校長の池谷です。皆さんはもちろん、先生方も過去に経験したことのない、今までで最も遅い1学期最終日となりました。今日は朝から、大変暑い中、皆さんが登校する姿を見て、「本当に、最後の日まで、みんな頑張ってるな」と感じました。

さて、今年4月の入学式の時、「まずは、入学式ができたことに、素直に喜びたい」と伝えました。そのころは、「明日すらも、どうなるかわからない！」社会はそれくらい切迫した状況でした。そして、先日行われた中体連の代替大会も、全国大会、東海大会、県大会が次々と中止になる中、試合後、二中学生に掛けた言葉は、「本当に試合ができてよかった！」でした。久々の試合に皆さんが夢中に取り組んだ姿、休校明けに友達と再会し喜びを爆発させた姿、「学校の重要さ」を再発見した瞬間でありました。

コロナとの闘いは、あと1・2年は続くでしょう。文部科学省「学校における新しい生活様式」は、教師の指示で動くのではなく、皆さんが、主体的に考え実践することを呼びかけています。これは、2学期の体育大会、文化祭、延いては、今後の皆さんの健康を守る毎日の生活に繋がっていきます。

さて、3年生は、部活が終わると「最後の行事」と「進路」へと、舵を切ります。1，2年生も同じですが、このような節目では、「けじめ」がとても重要になってきます。「簡単なようで難しく」「心を鬼にして」「全てを変える覚悟」がないと、なかなか生活を変えることはできないものです。勉強も部活も、そして、人生も、全て「けじめ(=切り替える力)」が重要です。

明日から16日間の夏休みになります。この貴重な期間に、今までやってきた、学校の勉強や塾の勉強などの「与えられた勉強」ではなく、是非、「自分でやる、自分で考えた、自分に合った、自分の勉強」をやってほしいと思います。自分を正直に振り返り、自分の目標(=自分の力にあった参考書や問題集など)を決め、必ずやり切ることです。

そのためには、今日帰りましたら、まずは心を休め、明日からの有意義な16日間をスタートさせてください。